

地域観光案内の現状調査と 学生コンシェルジュによるまち歩き企画の実践 ～岐阜県西濃地域における地域観光コンシェルジュの可能性～

岐阜経済大学 まちなか共同研究室マイスター倶楽部 まちなかツーリズムプロジェクト

4年 桐山敬太、松田亮祐 3年 川戸口晃平 2年 草野壮真 1年 山田摩耶

2015/12/12 「学生による地域課題解決提案事業」報告会

1. プロジェクトの背景および地域課題

現在、地域資源を生かした体験型観光や着地型観光¹が注目されている。こうした背景には、地域経済の活性化において、「観光」の持つ幅広い経済波及効果や雇用の創出といった役割が指摘されている点が挙げられる²。これまで私たちは、「体験交流ツーリズム」をテーマにした「めぐりあいトラベルプロジェクト」、「フードツーリズム」に基づく「はらぺこトラベルプロジェクト」といった活動を展開してきた。これらの経験から、着地型観光が成立する条件として、地域の歴史的資源や自然資源をパッケージ化してつなげ、観光商品化する地域の主体が重要であると考えた。

このような着地型観光の視点から岐阜県西濃地域の課題を捉えた場合、次の問題点が挙げられる。そのひとつは、通過型観光の問題である。つまり観光とは言っても、ひとつの拠点施設に立ち寄るだけで、まちを周遊・回遊するような機会が限られている場合が多い。これでは必然的に滞在時間が短くなり、高い波及効果にはつながらない。また他にも、イベント開催期間と平常時の賑わいに差が大きいということ、まちの回遊性が弱いといった問題がある。このような問題に対し、今回私たちが地域課題として位置付けたのは「観光客と地域資源をつなげる条件」が足りていないという点である。すなわち、滞在時間を延ばし回遊性を高めるための「つなぎ、むすぶ」条件を整備していく必要があると考えた。

2. 調査と実践の方向性

観光客と地域資源をつなげる条件をどのようにして整えていくか、その解決方法の一つが「地域観光コンシェルジュ」であると私たちは考えている。観光庁では「地域観光コンシェルジュ育成ガイド」を作成して地域観光の案内を担う人材育成の方向性を示している。一方、西濃地域の中核都市である大垣市では市民活動団体「ふるさと大垣案内の会」による観光案内の取り組みが盛んであるが、これは歴史や文化資源をはじめとした案内コースが中心であり、必ずしも多様な地域観光資源を取り込んだものではない。ここに私たち学生たちが関わり、提案する意義があると考えた。すなわち、「学生視点」のまち歩きを実践し、そのコーディネーターとしてのコンシェルジュの可能性を提案していくことで、新しい観光のあり方を広げることになると思われる。

3. 調査・実践の概要

調査活動：ヒアリング調査による現状と課題の把握（ふるさと大垣案内の会へのヒアリング）

実践活動①：観光コースの発掘・提案・学生自身がコンシェルジュ（全国まちづくりカレッジ in 大垣におけるエクスカーション）

実践活動②：地域観光コンシェルジュの育成（おむすび博におけるコース立案講座の開催）

実践活動③：観光資源の発掘・発信（全国お茶まちづくりカレッジ in 宇治における「大垣茶」のPR）

¹ 着地型観光とは、観光客を受け入れる地域側が観光商品やプログラムを企画・運営する形態のことであり、地域外の大手旅行代理店が企画するようなマストツーリズムに対置させられるかたちで注目されている。

² 例えば、岐阜県では、2014（平成 26）年における岐阜県内の観光消費による経済波及効果を試算しており、生産誘発額として 4124 億 3100 万円、就業誘発効果は 3 万 9872 人であるとされている。出所：「平成 26 年岐阜県観光入込客統計調査」岐阜県観光国際局観光企画課

4. 西濃地域における観光の現状

岐阜県における観光入込客数（実数）は、2014（平成 26）年度に 3686 万 2561 人であった。うち西濃地域における観光客数が 651 万 5427 人であり、岐阜県全体の 17.7%を占める。一方、圏域ごとの観光消費額を見ると西濃地域は 213 億 3299 万 7866 円であり、岐阜県全体の 7.9%のシェアしかない。このデータからは、西濃地域の観光は岐阜県内でも遅れており、とりわけ観光消費の面からは伸び白があると考えられる。

岐阜県における圏域別、観光入込客数（実数、人）と観光消費額（円）

圏域	項目	日帰り	宿泊	計	圏域別構成比
岐阜	入込客	6,719,248	1,296,517	8,015,765	21.7%
	消費額	17,894,870,912	31,232,766,126	49,127,637,038	18.2%
西濃	入込客	6,268,476	246,951	6,515,427	17.7%
	消費額	14,682,699,865	6,650,298,001	21,332,997,866	7.9%
中濃	入込客	8,221,374	401,374	8,622,748	23.4%
	消費額	30,218,534,093	9,537,937,450	39,756,471,543	14.8%
東濃	入込客	7,497,864	539,571	8,037,435	21.8%
	消費額	34,154,736,336	12,312,943,797	46,467,680,133	17.2%
飛騨	入込客	2,580,348	3,090,838	5,671,186	15.4%
	消費額	18,626,049,533	94,129,790,792	112,755,840,325	41.8%
県計	入込客	31,287,310	5,575,251	36,862,561	100.0%
	消費額	115,576,890,739	153,863,736,166	269,440,626,905	100.0%

出所：「平成 26 年岐阜県観光入込客統計調査」岐阜県観光国際局観光企画課

5. 観光案内ボランティアガイドの現状

西濃地域の中核都市である大垣市にて、観光案内を担っている団体として、「ふるさと大垣案内の会」がある。この団体は、1600 年の関ヶ原の戦いより 400 年を記念し 2000 年に開催された「大垣博」に向けて、「案内ボランティアの会を作ってはどうか」という行政の働きかけで、1999 年に発足したボランティア団体である。会員数は当初 31 名から始まり、2015（平成 27）年 9 月末現在 75 名で平均年齢約 69 歳。上石津と墨俣にも支部を置いている。ガイド料金は基本的に無料。当番制で奥の細道むすびの地記念館内のスタッフルームに 3 名程度ガイドが常駐し、主に事前予約による観光案内を行っている。そのほか、地元小学生に対して郷土学習の課外学習支援などの文化活動や大垣市でのイベントにも協力している。

ガイドの利用者は、高齢者が多く、歴史同好会やバスによる団体ツアーで利用するケースが多い。また、愛知県からの参加者が比較的に多いのも特徴である。課題としては、むすびの地記念館に立ち寄るだけで完結してしまうことが多い。バスの団体客であれ、鉄道利用者であれ滞在時間が短いことや食事をとる場所が周辺にないことが課題として挙げられる。また、ふるさと案内大垣の会はボランティアで集まっているため、事前予約を受けた日に合わせて人員を確保することに手一杯であり、活動をさらに広げていくことは難しいのが現状である。

